

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬) 乙第 31 号	氏名	南 貴子
学位審査委員	主 査	蒔田 直昌	
	副 査	澄川 耕二	
	副 査	増崎 英明	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、僧帽弁腱索断裂の診断において、経胸壁心エコー法（経胸）と経食道心エコー法（経食）という二つの心エコー法の診断能力の違いと、診断能力に影響を与える要因を明らかにしようとするもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 僧帽弁形成術または僧帽弁人工弁置換術を施行した 61 人について、僧帽弁閉鎖不全(MR)の重症度、部位、腱索断裂の有無などを検討したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、腱索断裂の術前診断率は経食の感度が高かったが特異度には有意差がないことが判明した。特に、体表面積係数(BMI)>22、高度MR、腱索断裂が内・外側に存在する場合は、経食の診断感度は経胸よりも高かった。しかし粘液水腫様変性のある場合には差がなく、逆に経食には4例の偽陽性があった。これは、腱索断裂の部位によっては、経食で他の構造物と鑑別することが難しいこともあることを示している。以上の結果は、経胸と経食による腱索断裂の診断能力に、患者の体格やMRの重症度、腱索断裂の部位や病因が影響を与えることを示唆するものであり、今後の新たなMR診断法開発への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は循環器病学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			